

ペット一般教養Ⅱ

動物看護科

2年次

通年

30時間

必修

共通科目

2単位

講義

教養的科目

■授業の概要

就職セミナー、社会人準備、経営組織等についての概説

■到達目標

就職活動の基本を理解し、適切な準備と活動ができる

社会人に求められるコミュニケーションはどのようなものか理解し、卒業後の会社生活に活かすことができる

■成績評価の方法等

出席点、課題提出

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

ペット関連企業の実務経験者であり、経営者としての視点からペット業界の職業倫理や業界人としての心構えなどを指導します。

回数	授 業 内 容
1～8	就職活動セミナー 企業調査などの事前準備、活動する際のマナー、面接対策など
9～12	卒業研究について 研究の進め方、卒業レポートの書き方など
13～26	ペットビジネス 仕事で使う日本語、ビジネス用語、組織学など
27～30	社会人マナー 新入社員の心構え、社内マナーなど

特別活動Ⅱ

動物看護科

2年次

通年

60時間

必修

共通科目

2単位

実習

教養的科目

■授業の概要

主な学校行事である球技大会、スクールフェスティバル、ゼミ発表会、校外イベント活動等の企画運営又は協力。

年間行事を通し、グループ活動及び実行委員によるリーダーシップの育成

■到達目標

協調性を高める。物事に対する事前準備の確認や計画性の向上

■成績評価の方法等

出席点、取り組み姿勢

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：無

回数	授 業 内 容
1～5	球技大会 新入生との親睦を深めることを目的に実施する
6～35	スクールフェスティバル 実行委員をリーダーに学生企画、出店の準備から本番まで行う
36～45	わんにゃんドーム IPC ブース内で、学生企画を実践する
46～55	ゼミ発表 校内予選を行い、選抜された班は IPC グループ姉妹校との決戦に挑む
56～60	卒業準備 卒業に関わる手続き、卒業後のガイダンスなど

ゼミナール

動物看護科

2年次

通年

30時間

必修

共通科目

2単位

演習

専門基礎科目

■授業の概要

課題研究と連動して動物の生体を研究する。プレゼン技術向上。

■到達目標

社会人スキルの向上及びコミュニケーション力の向上

卒業研究を通じてプレゼンテーションスキルを身につけ、表現力向上を図る。

■成績評価の方法等

出席点、取り組み姿勢

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

獣医師又は愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

回数	授 業 内 容
1～30	テーマ決め、計画書作成 計画書に則った実験を行う データ収集 プレゼンテーション作成

課題研究

動物看護科

2年次

通年

45時間

必修

共通科目

3単位

演習

専門基礎科目

■授業の概要

卒業研究及び卒業論文の作成

■到達目標

問題把握能力の向上

■成績評価の方法等

出席点、卒業レポート

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

獣医師又は愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

回数	授 業 内 容
1～45	ゼミナールにてデータ収集を行った資料を使用し、卒業レポートを作成する

動物形態機能学Ⅱ

動物看護科

2年次

通年

90時間

必修

専門科目

6単位

講義

専門科目

■授業の概要

動物の生命維持の仕組みを形態、機能、生化学の面から学ぶ

■到達目標

動物の生命維持の仕組みを理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

獣医師として獣医療現場に携わる講師が担当します。

回数	授 業 内 容
1	解剖生理学とは、生体の成り立ち
2～3	細胞の構造と機能
4～5	動物の組織
6～7	体液と尿
8～11	骨格系 役割、骨の形状、骨の基本構造、骨の微細構造、骨の成長、骨の連結、主な骨格
12 ～ 14	筋肉系 役割、骨格筋、心筋、平滑筋、筋繊維の微細構造、筋肉収縮のメカニズム、筋紡錘、腱紡錘、 筋肉のエネルギー、主な骨格筋、骨格筋以外の横紋筋
15～29	感覚器系 役割、感覚の順応、感覚の投影【視覚】【聴覚】【味覚】【嗅覚】【皮膚感覚】
30～33	循環器系 役割、構造、心、血管、血液循環の調節、主な動脈系、主な静脈系、冠状循環、胎子循環
34～37	呼吸器系 役割、構造、換気の仕組み、ガス交換、血液による酸素の運搬、血液による二酸化炭素の運搬、呼吸の周期性、肺換気量の調節
38～44	消化器系 役割、消化器系構造、歯の構造、消化管を支配する神経、消化器系への血液供給、消化管の運動と調節、消化液、肝臓、膵臓の役割、構造、消化、吸収、腸内細菌叢
45～48	泌尿器系 役割、構造、腎実質の微細構造、尿生成の仕組み、排尿の仕組み
49～54	生殖器系 役割、生殖器の構造、性の分化、性腺機能の調節、性周期、妊娠、分娩

55～60	<p>内分泌系</p> <p>役割、内分泌系器官とホルモンの作用、内分泌系の調節、視床下部、下垂体、各種の特徴</p>
61～64	<p>神経系</p> <p>役割、ニューロン、有髄神経と無髄神経、電気的伝導、化学的伝達、神経伝達物質、中枢神経(大脳、間脳、中脳、橋、小脳、延髄、脊髄、末梢神経)</p>
65～68	<p>免疫系</p> <p>自然免疫、獲得免疫、抗原と抗体、リンパ球、細胞性免疫、体液性免疫、中枢性リンパ組織、末梢性リンパ組織、アレルギー、自己免疫疾患</p>
69～72	<p>血液・リンパ系</p> <p>役割、構造、血液、リンパ系、生体防御の仕組み</p>
73～89	<p>復習</p>
90	<p>試験</p>

動物病理学

動物看護科

2年次

前期

30時間

必修

専門科目

2単位

講義

専門科目

■授業の概要

様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化などを学ぶ

■到達目標

様々な疾患が生体にもたらす変化を理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

獣医師として獣医療現場に携わる講師が担当します。

回数	授 業 内 容
1～2	・動物病理学とは・発病のメカニズム・変性・化生・萎縮・肥大と過形成
3～5	炎症とオータコイド ・炎症の発現機構・炎症の経過・炎症細胞と特徴・炎症の過程・炎症の分類 ・オータコイド・ヒスタミン・セロトニン・ブラジキニン・エイコサノイド ・血小板活性化因子
6～7	体温調節 ・変温動物と恒温動物・生体内の温度分布・体温調節の仕組み
8	脱水 ・水分の獲得、喪失・状態・原因・高張性、低張性
9	浮腫 ・状態・原因・炎症性、心疾患、静脈閉鎖、低蛋白血症
10	ショック ・状態・原因・低容量・血液量減少性ショック、心原生ショック、細菌性・敗血症性ショック、血管運動・閉塞性ショック
11	呼吸困難 ・状態・原因・肺性呼吸困難、心臓性呼吸困難、神経・筋性呼吸困難
12	咳 ・状態・原因
13～14	腫瘍 ・腫瘍とは・腫瘍の命名法・悪性腫瘍と良性腫瘍・腫瘍の発生と進展・腫瘍の発生機序 ・腫瘍の影響
15～29	試験対策
30	試験

動物薬理学

動物看護科

2年次

通年

60時間

必修

専門科目

4単位

講義

専門科目

■授業の概要

薬物の体内動態と作用機序、臨床応用、副作用等について学ぶ

■到達目標

薬物の作用について理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

獣医師として獣医療現場に携わる講師が担当します。

回数	授 業 内 容
1～5	薬（医薬品）を扱うための基本的知識
6～10	輸液
11～14	感染症の薬
15～18	化学療法薬
19～21	炎症とアレルギーの薬
22～25	消化器の薬
26～30	血液・免疫系の薬
31～34	泌尿器系の薬
35～38	呼吸器系の薬
39～42	オータコイド、代謝・内分泌系の薬
43～46	麻酔に関する薬
47～48	投薬量計算
49～50	各種投薬法
51～59	飼い主説明
60	定期試験

動物感染症学Ⅱ

動物看護科

2年次

通年

60時間

必修

専門科目

4単位

講義

専門科目

■授業の概要

微生物などの生物学的特性、伝播様式、感染防御に関わる免疫学の基礎などについて学ぶ

■到達目標

微生物などの特性や免疫学などについて理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

獣医師又は愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

回数	授 業 内 容
1～2	感染症とは、感染の形態、感染経路、感染症の予防、感染症の分類
3～4	内部寄生虫Ⅰ 回虫、鉤虫の特徴、感染経路、症状、予防、治療
5～6	内部寄生虫Ⅱ フィラリア、蟯虫の特徴、感染経路、症状、予防、治療
7～8	内部寄生虫Ⅲ 鞭虫、糞線虫の特徴、感染経路、症状、予防、治療
9～10	内部寄生虫Ⅳ 条虫、マンソン裂頭条虫の特徴、感染経路、症状、予防、治療
11～12	内部寄生虫Ⅴ コクシジウム、腸トリコモナスの特徴、感染経路、症状、予防、治療
13～14	内部寄生虫Ⅵ ジアルジア、トキソプラズマの特徴、感染経路、症状、予防、治療
15～16	内部寄生虫Ⅶ 吸虫、蟯虫の特徴、感染経路、症状、予防、治療
17～18	外部寄生虫Ⅰ ノミ、マダニの特徴、感染経路、症状、予防、治療
19～20	外部寄生虫Ⅱ アカラス、ツメダニの特徴、感染経路、症状、予防、治療
21～22	外部寄生虫Ⅲ カイセン、ミミカイセンの特徴、感染経路、症状、予防、治療
23～24	外部寄生虫Ⅳ シラミ、ハジラミの特徴、感染経路、症状、予防、治療
25～26	原虫とは、構造、原虫による病気（感受動物、病因、感染経路、症状、治療）

27～28	真菌とは、構造、真菌による病気（感受動物、病因、感染経路、症状、治療）
29～30	細菌とは、構造、細菌の増殖と代謝、グラム染色、 細菌による病気（感受動物、病因、感染経路、症状、治療）
31～32	リケッチアとは、構造、リケッチアによる病気（感受動物、病因、感染経路、症状、治療）
33～34	クラミジアとは、構造、クラミジアによる病気（感受動物、病因、感染経路、症状、治療）
35～36	ウイルスとは、構造、ウイルスによる病気（感受動物、病因、感染経路、症状、治療）
37～38	マイコプラズマとは、構造、 マイコプラズマによる病気（感受動物、病因、感染経路、症状、治療）
39～40	微生物検査 検体採取と取扱、微生物染色法、微生物培養法、抗原検出法、抗体検出法、遺伝子検出法 薬剤感受性試験
41～45	免疫学の基礎と応用 免疫担当細胞とその役割、自然免疫と獲得免疫、液性免疫と細胞性免疫、アレルギー（I～ V型）と自己免疫疾患、ワクチンの原理、種類、プログラム
46～49	滅菌と消毒 各種滅菌法と消毒法の復習
50～59	主なズーノーシスの症状、治療法、予防法の復習
60	定期試験

動物臨床栄養学

動物看護科

2年次

通年

60時間

必修

専門科目

4単位

講義

専門科目

■授業の概要

5 大栄養素やライフステージ別の給餌方法等を学ぶ

■到達目標

5 大栄養素やライフステージ別の給餌方法などを理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

獣医師又は愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

回数	授 業 内 容
1～2	動物看護と栄養学 栄養素Ⅰ
3～4	栄養素Ⅱ
5～6	栄養素Ⅲ
7～8	犬と猫の栄養要求の違い
9～10	ライフステージ別の栄養管理Ⅰ ・繁殖期（妊娠期・授乳期）・成長期（哺乳期・離乳期・離乳後の成長期）
11～12	ライフステージ別の栄養管理Ⅱ ・成犬、成猫期（維持期）・高齢期
13～14	ペットフード表示の見方 栄養状態の評価、エネルギー
15～16	ペットフードの種類 フードに含まれるその他の成分
17～18	ペットフード市場、ペットフードの管理、ペットフードに関する規則
19～20	嗜好性をあげる為の給餌、強制給餌方法、注意点
21～22	嗜好性をあげるための給餌の実施
23～24	強制給餌の実施
25	特別療法食とは、病院にて取扱われているフード会社と特徴
26～27	尿路疾患 ・疾患の原因、症状・食餌管理・注意点

28～29	心疾患 ・疾患の原因、症状・食餌管理・注意点
30～31	消化器疾患 ・疾患の原因、症状・食餌管理・注意点
32～33	腎臓疾患 ・疾患の原因、症状・食餌管理・注意点
34～35	肝臓疾患 ・疾患の原因、症状・食餌管理・注意点
36～37	口腔疾患 ・疾患の原因、症状・食餌管理・注意点
38～39	糖尿病 ・疾患の原因、症状・食餌管理・注意点
40～41	食物アレルギー ・疾患の原因、症状・食餌管理・注意点
42～43	関節疾患 ・疾患の原因、症状・食餌管理・注意点
44～45	癌 ・疾患の原因、症状・食餌管理・注意点
46～47	脳の加齢と認知障害 ・疾患の原因、症状・食餌管理・注意点
48～49	甲状腺機能亢進症 ・疾患の原因、症状・食餌管理・注意点
50～51	医療面接 ・医療面接の目的・コミュニケーションの基本・栄養指導医療面接の基本的な流れ
52～53	経管・静脈栄養法 経管栄養法の種類、特徴、方法、静脈栄養法の種類、特徴、方法
54～55	経管・静脈栄養法の実施
56～59	飼主さんへの栄養指導
60	定期試験

動物医療関連法規Ⅱ

動物看護科

2年次

前期

15時間

必修

専門科目

1単位

講義

専門科目

■授業の概要

動物や獣医療に関連する様々な法規について学ぶ

■到達目標

動物や獣医療に関連する法規について理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

獣医師又は愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

回数	授 業 内 容
1～2	法の基礎知識 動物の愛護及び管理に関する法律
3～4	獣医師法、獣医療法、家畜伝染病予防法、家畜保健衛生所法
5～6	飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律、ペットフード安全法 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律、狂犬病予防法
7～8	と畜場法、化製場等に関する法律、食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律 食品衛生法、身体障害者補助犬法、
9～10	絶滅の恐れのある野生動植物の種の保存に関する法律、ラムサール条約、ワシントン条約 鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律
11～12	特定外来生物による生態系などに係る被害の防止に関する法律、生物多様性基本法、 廃棄物の処理及び清掃に関する法律
13～14	医薬品医療機器等の品質有効性及び安全性の確保などに関する法律、労働基準法、 製造物責任法、個人情報保護に関する法律
15	試験

動物繁殖学

動物看護科

2年次

後期

30時間

必修

専門科目

2単位

講義

専門科目

■授業の概要

繁殖に関わる形態機能、および妊娠、分娩、新生児管理などについて学ぶ

■到達目標

繁殖に関わる形態機能、妊娠、分娩、新生児管理などについて理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

獣医師又は愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

回数	授 業 内 容
1～3	生殖器の形態と機能（犬猫）
4～6	繁殖の意義、発情（犬猫）、交配（犬猫）、人工授精（犬猫）
7～10	妊娠（犬猫）
11～13	分娩準備（犬猫）、正常分娩（犬猫）
14～16	異常分娩（犬猫）、難産のケーススタディ（犬猫）、難産の頻度と対応（犬猫）
17～18	帝王切開の実施基準（犬猫）
19～20	分娩後の状態（犬猫）
21～23	子犬・猫の管理、新生子の看護、狼爪切除、断尾、断耳、母乳、母犬・猫管理
24～26	性格形成（犬猫）、社会化（犬猫）、遊び（犬猫）
27～29	遺伝
30	定期試験

動物臨床看護学総論Ⅱ

動物看護科

2年次

前期

15時間

必修

専門科目

1単位

講義

専門科目

■授業の概要

動物看護過程から、事例ごとの個別性に応じた動物看護の基本的な考え方を学ぶ

■到達目標

事例ごとの個別性に応じた対応方法などの基本的な考え方を理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

獣医師又は愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

回数	授 業 内 容
1～4	診療記録 カルテの作成方法、 動物看護記録の目的別、書式に応じた作成法
5～8	動物看護業務 チーム獣医療における看護師の役割 ケアの標準化 事故管理・防止について 家庭での継続看護を視野に入れた退院計画・指導
9～12	ターミナルケア 目的、意義 QOL・ホスピス・緩和ケア エンゼルケア
13～14	動物看護過程の実施、評価
15	定期試験

動物臨床看護学各論Ⅱ

動物看護科

2年次

通年

120時間

必修

専門科目

4単位

実習

専門科目

■授業の概要

様々な疾患の病態生理を理解し、引き起こされる症状、処置、治療などについて学ぶ

■到達目標

疾患別の症状、処置、治療などについて理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

獣医師として獣医療現場に携わる講師が担当します。

回数	授 業 内 容
1～2	疾患学とは、疾患学を学ぶにあたって
3～7	正しい診断へのステップ バイタルサイン、体重、全身検査
8～12	骨格系疾患 ・問診ポイント・よく認められる症状・行う可能性のある検査 ・治療・看護の際の注意・各疾患の状態、原因、予防、治療、看護
13～16	筋肉系疾患 ・問診ポイント・よく認められる症状・行う可能性のある検査 ・治療・看護の際の注意・疾患の状態、原因、予防、治療、看護
17～21	感覚器系【視覚】 ・問診ポイント・よく認められる症状・行う可能性のある検査 ・治療・看護の際の注意・疾患の状態、原因、予防、治療、看護
22～28	感覚器系【皮膚感覚】 ・問診ポイント・よく認められる症状・行う可能性のある検査 ・治療・看護の際の注意・疾患の状態、原因、予防、治療、看護
29～32	感覚器系【聴覚】 ・問診ポイント・よく認められる症状・行う可能性のある検査 ・治療・看護の際の注意・疾患の状態、原因、予防、治療、看護
33～37	循環器系 ・問診ポイント・よく認められる症状・行う可能性のある検査 ・治療・看護の際の注意・疾患の状態、原因、予防、治療、看護
38～42	呼吸器系 ・問診ポイント・よく認められる症状・行う可能性のある検査 ・治療・看護の際の注意・疾患の状態、原因、予防、治療、看護

43～52	<p>消化器系</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問診ポイント・よく認められる症状・行う可能性のある検査 ・治療・看護の際の注意・疾患の状態、原因、予防、治療、看護
53～57	<p>泌尿器系</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問診ポイント・よく認められる症状・行う可能性のある検査 ・治療・看護の際の注意・疾患の状態、原因、予防、治療、看護
58～62	<p>生殖器系</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問診ポイント・よく認められる症状・行う可能性のある検査 ・治療・看護の際の注意・疾患の状態、原因、予防、治療、看護
63～67	<p>内分泌系</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問診ポイント・よく認められる症状・行う可能性のある検査 ・治療・看護の際の注意・疾患の状態、原因、予防、治療、看護
68～72	<p>神経系</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問診ポイント・よく認められる症状・行う可能性のある検査 ・治療・看護の際の注意・疾患の状態、原因、予防、治療、看護
73～77	<p>血液・リンパ系</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問診ポイント・よく認められる症状・行う可能性のある検査 ・治療・看護の際の注意・疾患の状態、原因、予防、治療、看護
78～82	<p>感染性疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問診ポイント・よく認められる症状・行う可能性のある検査 ・治療・看護の際の注意・疾患の状態、原因、予防、治療、看護
83～87	<p>がん疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問診ポイント・よく認められる症状・行う可能性のある検査 ・治療・看護の際の注意・悪性腫瘍の特徴・疾患の状態、原因、予防、治療、看護
88～119	<p>試験対策</p> <p>各種疾患特徴、治療、看護の注意など</p>
120	<p>定期試験</p>

動物医療コミュニケーションⅡ

動物看護科

2年次

前期

30時間

必修

専門科目

2単位

講義

専門科目

■授業の概要

スタッフとのコミュニケーション、又飼い主に対してのコミュニケーションなどについて学ぶ

■到達目標

飼い主とのコミュニケーションだけでなく、スタッフ同士のコミュニケーション方法も身につける

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

獣医師又は愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

回数	授 業 内 容
1	飼主説明（来院時、往診時）、必要性、手順方法
2～4	疾病予防の説明
5～7	健康管理の説明
8～10	薬の説明
11～13	処方食の説明
14～18	各疾患の説明
19～20	手術の説明
21～23	アニコムレセプター
24～26	受付業務と物品購入、管理
27～30	検定試験対策

動物看護実習

動物看護科	2年次	通年	120時間 4単位	必修 実習	専門科目 専門科目
-------	-----	----	--------------	----------	--------------

■授業の概要

動物看護過程、疾患別看護などの実践を行う

■到達目標

動物看護過程、疾患別看護を実際に行うことで、その知識・技術を身につける

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

獣医師又は愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

回数	授 業 内 容
1～2	入院動物の看護Ⅰ ・準備する物・入院体制の確認・動物の受け入れ・入院環境の確認・観察のポイント
3～4	入院動物の看護Ⅱ ・動物を扱う際の注意点・食餌管理・運動と散歩・動けない動物のケア・輸液管理
5～6	入院動物の看護Ⅲ ・退院する時・ケージの衛生管理 健康な動物の預かり ・預かる時の確認事項・動物を預かる手順・ケアの内容
7～9	飼主説明 ・入院前の説明・入院中の説明・退院後の説明
10	在宅医療 ・在宅医療とは・在宅医療の特徴・酸素の供給・その他の便利なツール
11～13	看護計画 ・入院動物の看護計画（代表的な入院理由別）
14～17	ケア ・入院動物のケア方法（代表的な治療・処置別）
18	若齢動物のケアⅠ ・新生子のケア
19	若齢動物のケアⅡ ・新生の健康チェック
20	若齢動物のケアⅢ ・重症時の管理
21	子犬と子猫の行動発達 ・犬の行動発達・猫の行動発達

22	<p>予防</p> <p>ワクチン、フィラリア、デンタル、寄生虫、不妊手術</p>
23	<p>バピークラス</p> <p>目的、利点、内容</p>
24	<p>高齢動物のケアⅠ</p> <p>・高齢動物のケア</p>
25～26	<p>高齢動物のケアⅡ</p> <p>・高齢動物の健康チェック</p> <p>・身体的、性格的、行動的变化</p>
27～28	<p>高齢動物のケアⅢ</p> <p>・重症時の管理・入院、預かり時の看護・褥瘡</p>
29	<p>食餌</p> <p>・健康面・しつけ面</p>
30～49	<p>リハビリテーション</p> <p>リハビリテーションの種類と方法、将来展望、リハビリテーションの実施</p>
50～59	<p>クライアントエデュケーションの実践</p> <p>・受付～会計まで流れ・敬語の使い方・アニコムレセプターの使い方・カルテ用語</p>
60～69	<p>保定</p> <p>・各種保定</p>
70～119	<p>看護実習</p> <p>看護・介護実施</p>
120	<p>定期試験</p>

動物臨床検査学実習

動物看護科

2年次

通年

90時間

必修

専門科目

2単位

実習

専門科目

■授業の概要

各種検査、機器の扱いなどの実践を行う

■到達目標

各種検査の実施、機器を使用して検査を行い、より実践的な知識・技術を身につける

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

獣医師又は愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

回数	授 業 内 容
1	臨床検査とは 生体から得られる材料、スクリーニング検査、特殊検査
2～4	全身検査
5～10	糞便検査
11～14	尿検査
15～25	皮膚被毛検査
26～32	血液検査
33～34	骨髄検査 目的、検出できる異常、検査手順
35～36	X線検査 放射線に関する知識、撮影の為の予備知識、撮影にあたって
37～38	超音波検査 超音波に関する知識、超音波検査の予備知識、検査にあたって
39～40	心電図・血圧検査 心電図の原理と基礎、心電計の種類、検査の為の予備知識、心電図の読み方、検査の手順
41～42	内視鏡検査 内視鏡に関する知識、消化管内視鏡の予備知識、検査の手順
43～44	CT・MRI検査 CTとMRI検査の違い、CT検査とは、MRI検査とは
45～46	神経学的検査 姿勢反応と脊髄反射、脳神経検査法、神経学的検査の評価記録法

47～49	眼科検査 シルマー試験、フルオレセイン試験の検査手順、注意点、眼圧測定手順、注意点 眼底検査手順、注意点
50～51	細胞診と病理組織検査 細胞診断の目的と方法、病理組織検査の検体取扱法
52～53	顕微鏡 各部位名称、操作方法、管理方法
54～89	各種検査の実施
90	定期試験

動物形態学実習

動物看護科

2年次

通年

60時間

必修

専門科目

2単位

実習

専門科目

■授業の概要

動物の形態、機能などについて模型などを通じて学ぶ

■到達目標

動物の形態、機能などを模型や生体などを通して学び、理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

獣医師又は愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

回数	授 業 内 容
1～59	骨格系、筋肉系、感覚器系、循環器系、呼吸器系、 消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系 模型や生体を見ながら名称・配置・形態・機能を確認 スケッチや触診などでも確認
60	定期試験

動物外科看護学実習

動物看護科

2年次

通年

90時間

必修

専門科目

2単位

実習

専門科目

■授業の概要

手術準備、術中、術後の管理、救急救命などの実践を行う

■到達目標

手術準備、術中、術後管理など実際に行うことで、より実践的な知識・技術を身につける

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

獣医師又は愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

回数	授 業 内 容
1～6	外傷・創傷管理
7～11	手術前管理
12～16	手術中管理、麻酔
17～21	手術後管理、救急救命、理学療法
22～26	手術前管理、手術後管理 飼主説明
27～31	輸液管理 確認
32～89	手術 実施
90	定期試験

産業動物

動物看護科

2年次

通年

45時間

必修

専門科目

3単位

講義

専門科目

■授業の概要

産業動物の歴史、品種、飼養管理方法及び畜産業など社会とのかかわりについて学ぶ

■到達目標

産業動物の歴史、品種、飼育管理方法などについて理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

移動動物園に従事したのち、ドッグブリーダーとしての実務経験者、獣医師又は愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

回数	授 業 内 容
1～8	産業動物とは 馬の歴史、品種、特徴、飼養方法、形態機能
9～16	牛の歴史、品種、特徴、飼養方法、形態機能
17～24	綿羊・山羊の歴史、品種、特徴、飼養方法、形態機能
25～32	豚の歴史、品種、特徴、飼養方法、形態機能
33～40	鶏の歴史、品種、特徴、飼養方法、形態機能
41～44	日本の酪農業の概要（農場HACCP） 酪農業の概要、牛肥育業の概要、養豚業の概要、養鶏業の概要、主な畜産物
45	定期試験

実験動物

動物看護科

2年次

通年

15時間

必修

専門科目

1単位

講義

専門科目

■授業の概要

実験動物の歴史、品種、飼育管理方法、動物実験との関わりについて学ぶ

■到達目標

実験動物の歴史、品種、飼育管理方法等について理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

獣医師又は愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

回数	授 業 内 容
1～3	動物実験の理解と3R、遺伝的統御と微生物学的統御、実験動物の飼養管理 個体管理と記録、管理者の教育と安全
4	主な実験動物とその利用、飼養管理 イヌ
5	主な実験動物とその利用、飼養管理 ネコ
6	主な実験動物とその利用、飼養管理 ブタ、サル
7	主な実験動物とその利用、飼養管理 ウサギ、モルモット
8	主な実験動物とその利用、飼養管理 ラット、マウス
9	主な実験動物とその利用、飼養管理 その他の実験動物
10～14	実験動物について 各自実験動物について考えプレゼンする
15	定期試験

動物看護学総合実習

動物看護科

2年次

通年

180時間

必修

専門科目

6単位

実習

職業実践科目

■授業の概要

提携先の動物病院などで実践を行い、より実践的な技術・知識を習得する

■到達目標

実際の病院で実務を行い、即戦力なる知識・技術の習得を目指す

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

獣医師又は愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

回数	授 業 内 容
1～15	アイピーシー附属動物病院へ実習
16～30	宇野獣医科病院へ実習
31～179	病院業務の実践 アイピーシー保有犬の往診実習
180	定期試験